

開催地名	宮崎県 川南町
開催日時	令和6年9月29日(日)10:00~11:30
開催場所	川南町農村環境改善センター
語り部	甲木 喜一郎(熊本県荒尾市)
参加者	川南町防災士会会員及び川南町役場職員 34人
開催経緯	本町の地域防災の要となる防災士の資格取得状況が県内で下位の方であることなどから、防災士取得者の増加対策や防災士取得者の活用策として、令和5年度から防災士の組織化に向けた協議を始めている。同じ悩みを解決されてきた団体の講話を聞くことで、組織の方向性(活動内容等)を定める参考としたい。
内容	■ はじめに 講演者の甲木喜一郎氏は、防災士として長年にわたり地域防災活動に従事し、特に住民主体の防災計画の推進に力を注いできた。今回の講演では、地域防災の重要性、災害発生時の適切な行動、そして今後の防災対策について詳しく語られた。 川南町は比較的災害が少ない地域とされているが、決して安全とは言い切れない。特に南海トラフ地震のような大規模災害が発生した際には、行政の対応だけに頼るのではなく、地域住民一人ひとりが自助・共助の精神を持ち、迅速かつ適切な対応ができるように備えておくことが極めて重要であると強調された。 ■ 過去の災害事例から学ぶ教訓 甲木氏は、過去に発生した災害における避難行動の事例を紹介し、その教訓を参加者と共有した。特に、東日本大震災時に発生した宮城県石巻市の大川小学校の事例と、岩手県釜石市の「釜石の奇跡」の事例を取り上げ、避難判断の重要性について説明した。 大川小学校では、児童74名と教職員10名が津波の犠牲となった。この悲劇は、裏山に避難する選択肢があったにもかかわらず、避難判断が遅れたことが主な要因であった。事前のハザードマップでは津波浸水区域に指定されていなかったが、実際には津波が押し寄せ、想定外の被害が発生した。この事例からは、「避難すべきかどうか」を行政の指示に頼るのではなく、「危険を感じたら即座に避難する」ことの重要性が学ばれた。 一方、釜石市では、地震発生直後に釜石中学校の生徒たちが自主的に高台へ避難した。その行動を見た近隣の小学生たちも同様に避難し、結果として児童・生徒のほぼ全員が助かった。この事例は、「想定にとらわれず、最善を尽くす」という意識が命を救うことを証明している。 甲木氏は、これらの事例から「避難の判断を他者に委ねるのではなく、自ら考え、即座に行動すること」が生死を分ける鍵となると強調した。 ■ 地域防災活動の推進 地域の防災活動の一環として、甲木氏が関わる防災士会では、住民主体の防災計画の策定を進めている。特に、以下の取り組みが紹介された。 まず、避難所運営訓練では、災害発生時に行政の支援がすぐには届かないことを前提とし、住民が主体的に避難所を運営できる体制を整えることが必要とされた。特に、女性や高齢者の視点を取り入れた避難所運営が重要であり、プライバシーの確保や衛生環境の維持に関する具体的な対策が求められた。 また、ハザードマップの活用と避難計画の見直しが行われ、地域のリスクを正確に把握し、危険区域の住民には事前避難を促す取り組みが進められた。避難場所の確保や、地域ごとの避難ルートなどの定期的な確認も必要であるとされた。 さらに、防災リーダーの育成が進められており、地域住民の中から防災リーダーを選出し、定期的な訓練や研修を実施することで、災害時の対応力を強化している。特に、若い世代や女性の参加を促し、多様な視点から防災対策を考えることが重視された。 加えて、企業や施設との連携強化も図られており、商業施設や企業と協定を結び、災害時に避難所や物資提供の拠点として活用できるようにする取り組みが進められている。地域の事業者を防災活動に巻き込むことで、より実効性の高い支援体制の構築を目指している。

■ まとめ

甲木氏は、災害は「行政がすべてを対応できるものではなく、住民一人ひとりが主体的に備えることが重要である」と述べ、今後の防災対策として以下の点を挙げた。

まず、避難行動の習慣化が必要であり、避難指示を待つのではなく、自主的に避難する意識を持つことが命を守る鍵となる。「想定外」はあり得るものと考え、臨機応変な対応を心がけることが重要である。

次に、地域コミュニティの強化が求められ、防災士や自主防災組織の活動を強化し、住民が助け合う環境を作ることが不可欠である。特に、高齢者や障がい者の避難支援体制を整備し、普段から声をかけ合う文化を醸成することが重要とされた。

また、防災教育の充実が必要とされ、小学校や中学校での防災教育を強化し、次世代に防災意識を継承することが求められた。避難訓練の実施を通じて、実際の災害時に冷静に行動できるよう準備することが重要である。

さらに、女性の視点を活かした防災活動が推奨され、避難所運営や防災計画の策定に女性が積極的に関与することで、より多様なニーズに対応できる防災体制を構築することが求められた。

最後に、甲木氏は「防災は特別なものではなく、日常の延長線上にあるべきだ」と述べた。地域全体で防災意識を高め、実践的な対策を講じることで、次の災害に備えることができると締めくくった。



開催地より

講演された防災士会は、「行政と対等」、「自立、自主性」を原則に活動をされており、「会が会員のためにやるのではなく、会員が会に対して何ができるか」ということを念頭に会運営を行っているなど、各々参加者に響く内容であった。本町防災士会の自立、自主的運営に繋がるよう今回の講話を活用しながら行政として支援していきたい。